

氏 名	畠中 易子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 9 3 号
学位授与年月日	平成27年3月10日
学位論文題目	中堅看護師を対象とした自己評価による臨床実践能力と職業的アイデンティティとの関連

論文内容要旨

※整理番号	199	(ふりがな) 氏 名	はたなか やすこ 島 中 易子
修士論文題目	中堅看護師を対象とした自己評価による臨床実践能力と職業的アイデンティティとの関連		
<p>【研究目的】中堅看護師の臨床実践能力と職業的アイデンティティの関連を明らかにする。</p> <p>【研究方法】①研究デザイン：質問紙による横断的調査研究②研究対象：京都府滋賀県内の300床以上の病院の中堅看護師とした。③用語の操作定義 1)臨床実践能力：専門的判断を含む知識・技術・価値観および態度を複雑に組み合わせたものとする。2) 職業的アイデンティティ：看護に対する看護者の価値と信念とする。3) 中堅看護師：臨床経験5年以上19年以内の看護師とする。④データ収集方法：個人郵送にて返信にて回収した。また留め置きが可能な病院では、2週間留め置きの後、研究者が回収した。⑤測定用具：基本属性・看護実践の卓越性自己評価尺度－病棟看護師用・職業的アイデンティティ尺度・一般性セルフ・エフィカシー(自己効力感)尺度⑥研究仮説：臨床実践能力が高い中堅看護師は職業的アイデンティティが高い⑦データ分析方法：1) 臨床実践能力を3群に分け Kruskal-Wallis 検定を行った。職業的アイデンティティ尺度と臨床実践能力尺度には Spearman の順位相関係数を、職業的アイデンティティ尺度との影響要因を検討するため、重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。</p> <p>【結果】：重回帰分析の結果 $R^2=.501$、調整済み $R^2=.491$ であった。有意確率は、$p < .001$ を示した。標準偏回帰係数(β)は臨床実践能力 ($\beta=.521$)、自己効力感($\beta=.242$)、支援体制($\beta=.169$)であった。臨床実践能力 ($\beta=.518$) の影響度高い結果となった。</p> <p>【考察】5年から19年の中堅看護師は、自己の臨床実践能力を承認し、職業的アイデンティティに影響を与えていた。特に臨床実践能力尺度($\beta=.521$ $p < 0.001$)が影響していた。臨床実践能力尺度の下位尺度の得点との相関においてもすべての下位尺度と関連があった。「連続性・効率的な情報の収集と活用」$r=.528$ ($p < 0.01$)であり。現在、高度医療技術の進歩、在院日数の短縮など医療現場は目まぐるしく進化し、中堅とされる看護師は、医療チームの中核であり教育的立場や管理者としての役割も大きいいため、他者からの評価も受けやすい。また自己効力感尺度得点、支援体制の有無が職業的アイデンティティ尺度得点への要因の一つであることがしめされた。中堅看護師は、役割付与もあり、役割は負担にもなるが、個人の能力を評価されていることでもある。そのことが自己効力感を高め、職業的アイデンティティに影響している可能性がある。また、支援体制の有無が職業的アイデンティティに影響を与えていることが示唆された。</p> <p>【統括】今回対象とした5年から19年の中堅看護師は、中堅看護師の臨床実践能力の高い看護師は、職業的アイデンティティが高かった。個々の看護師は臨床実践の中で、職業的アイデンティティを持ち、患者・家族に対しよりよいケアを提供していたのではないかと考える。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。